町づくりの基本構想を まとめる

陸別町総合計画も

陸別町議会では十二日に全員による特別委員会をひらいて暮の第四回定例会で付託となつていた「陸別町総合計画基本構想」について審議しました。

これは千葉町政の登場いらい議会側からの町づくりの青写真をつくるべきだとの強い要望にもとずいて、町側では町内各界、各層の代表者による審議会を設けて二年がかりでようやく昨年の秋にまとめあげたもので、その内容はつぎのとおりり。

町総面積の85%は山林

まず自然的な条件としてあげられているのは

一、位置は十勝の最北端にあつて、北部は置戸町、訓子府町、津別町に境いを接し、東南西部は足寄町に接している

二、地形は東西四〇、一〇〇㍍、南北一〇、八〇〇㍍、総面積六一三、九三㎢平方㍍で、中央を南北に貫流する利別川を境いにして、西部は広大な高原性の段丘がひろがり、本町の基幹産業である酪農地帯となつており、利別川に注ぐ陸別川、勲弥別川、斗満川の流域に狭長な低地が存在しているが、総面積六一、三九三㌶のうち山林面積は五一、九二〇㌶で八五%を占めている

三、地質は、北見国境に源を発する利別川を境いにして、東側は水性岩を主とし、西側は火性岩を主としている

四、土壌は河川沖積土の大部分と、一部を防き火山性土壌で、一般に酸性が弱く冬期間の凍結の影響もあり、土性あらく通気性、透水性ともによく理学性に富んだところが多い

五、気象は、夏期と冬期の寒暖の差が大きく、七、八月の最高は三二度内外にともなり、一、二月は反対に零下三二度内外を示し、山間のため強風の襲来はすくなく風速は一般に弱い、年間降水量はおおむね七〇〇ミリ前後で道東方面ではすくなく、農耕期間に約六〇%の降水量があり悪条件とはならない、日照時間は表日本型を示し、とくに冬期は好天が持続し、初霜は九月上旬、晩霜は五月から六月上旬のあいだにあり無霜期は短い、積雪量は七六センチ㍍内外で土壌凍結の溶解が四月下旬におよぶため春の耕起、苗木の植栽がおくれる

関父子が土着の始まり

歴史的条件としては、明治二年に北海道開拓使庁が設置されてその管轄下に入り、明治十七年に白糠、足寄両郡各村戸長役場の管轄となり、明治三十年に釧路支庁の管轄となり、明治三十四年に関寛斉が国有地三五〇㌶の貸しつけをうけて四男又一と入地して開拓に着手したのが和人土着のはじまりで、同三十九年に津別に通ずる道路ができ、同四十三年に鉄道が開通して戸数が増加し大正八年に足寄ほか三村戸長役場から分離し、大正十二年には陸別ほか一村戸長役場を設置し二級町村制の施行によつて陸別村となり、昭和二十三年に十勝支庁管内に編入、同二十六年に西足寄町の斗満地区を編入、同二十八年に至るに町制を施行してこんにち

生産性の低い農業条件

社会的、経済的条件としては、本町の産業は農業と林業を基幹として中小企業が併存しており、産業の振興は農業、林業、商工業を重点とし、それぞれの経営を改善して所得の増大をはかり、文化的生活の向上をはかるにあるが、山麓地帯特有の気象条件のほか火山性土壌が多く農業の適地とはいえないので、冷湿害に強い寒地農業を確立する必要があるが農家一戸あたり九、一㌶とわずかで、生産性の低いため低所得農家が多い

総面積のうち森林面積は八五%で、豊富な森林資源を有し、製材工場の第二次加工による生産額は、本町産業経済に大きく貢献している

人口については、昭和十年の四、七四一人が同二十年に六、四九三人、同三十年には八、七六三人と逐年増加をみたが、同三十四年をピークに減少をみせている

この人口減少の主な原因は、伐採事業の縮小および若年労働力の都市産業への転出があげられるが、特に四十三、四年度において既存農家が他産業への転換、転出などにより著しい減少をみせており、過疎が深刻となつている

住民福祉の十年計画を策定

本町の自然的、社会的条件からその経済的基盤は必ずしも健全とはいえないので、現状を科学的に分析して住民の福祉の向上を目標として長期的かつ重点的に施策を見出し、国および道の施策と方向を一にしながらその手段を探究してゆくこの計画は昭和四十五年を初年度として昭和五十四年度を目標年度とする十カ年計画で、わが国経済の国際化、大型化の影響をうけ地域の変遷も著しいので、本町現状とこれをとりまく社会情勢をみきわめて、町発展の基本目標を定めて強力に推進するものとして

一、国道、道々の改良と舗装の促進および町道の改善をはかる

二、国土開発幹線自動車道着工促進をはかる

三、通信施設の整備を促進するとともに自動電話の早期実現をはかる

四、教育水準の向上をはかるため教育効果の適正化と施設の充実をはかる

五、社会教育の推進をはかり、組織の強化と育成につとめ住民の文化的水準の向上をはかる

六、社会的福祉施設の充実をはかり、住民の福祉向上に寄与する

七、青少年の健全な育成をはかるため育成施設の整備をはかる

八、住民の生活環境の改善をはかるため諸施設の整備を促進する

九、町民の健康で明るく豊かな生活の実現を期せるよう保健施設の整備をはかる

十、冷害のない寒地農業確立のため草地を開発して家畜を導入し、酪農を主体に農業経営の改善をはかり、農家経済の定と健全化を推進する

十一、国営および道営の農地開発事業の促進をはかる

十二、広大な面積に包蔵される豊富な森林資源を活用して各種産業の発展を促進する

などをかかげている

社長と社員の議員さん
仲よく陸別町議会に

同じ会社の社長と社員が仲よく議席にならんでいるという、町村議会としては全道でも珍しい陸別町議会の風景ー。

これは木材業界の不況がもたらした遇然の〝産物〟で、木材の町陸別ならではのできごとーというのは、和弘木材の職員だつた林保治議員とがそれぞれ労使を代表するような格好となつたもの。

片や自民党、片や社会党で立場は違うものの、どちらも温厚な紳士であり、こと自治体行政のことなので政党次元での対立した場面はみられません。

目標は八、三四〇人に

現状の過疎傾向をみると、人口の推移を予想することは難しいが、国営開拓パイロットおよび農業構造改善事業の推進とともに将来人口の定着と発展的要素を保有していると考えられる

四十年から四十四年までの人口動態における増減率は平均八三%だが、将来本計画の推進にともなつて農家戸数の固定化と林業および商工業の発展により市街地世帯の増加が考えられ、五十四年の目標年次において市街地一、九〇二世帯その他五〇一世帯と想定して人口八、三四〇人と想定さ

七、七九四町歩の開発

部門別施策の大綱として一、乾雑、無統制な市街地の区画整理

二、国道、道々の舗装にともない町道の歩道の整備舗装の促進

三、下水道、側溝の整備

四、耕、草地に利用可能の

七、七九四㌶の開発

五、地域開発のための道路の新設

六、電話申し込み積滞数の解消と自動化、即時化

七、消防図員の充足、常備化、消防体制の強化

八、交通環境の整備

などとし、社会環境整備の方向は

一、住宅は耐寒、耐火に劣つているので、住宅需用の解消と質的水準の引きあげをはかる

二、上斗満および小利別に簡易水道の設置

三、池北三町浄化センターがことしから稼働するが市街地のほか小利別、上斗満を特別清掃区域としてし尿の計画収集をはかる

四、じん芥処理の焼却炉を建設して衛生環境を改善する

五、自動車乗り入れ可能の参道新設にともない墓地区画の設定と墓苑の造成

火葬場の近代施設

六、住宅地域内に児童公園市街地周辺に緑地、公園

七、国保病院の整備と医師の確保

八、地域に密着した福祉施設の充実

などをあげている

高校は通信教育に

教育関係では

一、小規模校を適正規模校に吸収統合をはかり、陸別小学校の近代的校舎建設と各種特別教室、体育施設の充実をはかる

二、陸別高校の存続が不可能になつた場合は、はたらきながら学ぶもののために道有明高校の通信教育に参加するよう推進をはかり、その施設は青少年、成人教育の研修の場として利用する

基幹作物は牛乳に

産業振興の方向としては

一、農業は基幹作物を牛乳に定めて酪農専業を指向し、産増殖計画の推進にともない消流計画の確立農業後継者育成のための施設を設置する

二、林業の振興のために林道の整備と地帯別の森林の開発計画をすすめる

三、工業の振興には従来の製材のみならず合板、パルプ材の生産を開発するとともに、企業の合同、合理化により二次、三次加工業を開発する

四、商業振興については、商工会の機能を充実し、零細企業の〇型スーパー、どで体質改善

五、観光振興〇観光ルートレから訓子府をへて小利別開拓パイロット、ポントマム開拓パイロット、陸別市街、さらにカネラン峠より阿寒岳展望台、阿寒湖畔への整備を促進しバス乗り入れ、休憩所、展望台、駐車場を設けるほか温泉ボーリングを実施する

二十日に議決

十二日の特別委員会ではこの基本構想とこれにもとずく「陸別町総合計画書」も併せて審議した結果、これを原案どおりに認めて、二十日に招集の臨時町議会に報告して議決する予定。なお、この計画を実施するには総経費は百億円を要する大がかりなものなのでその年度の財政事情に応じて可能な範囲にしぼられるものとみられます。